

## 第7回黒潮町地区防災計画シンポジウム

11月6日(土)、大方高校で「第7回黒潮町地区防災計画シンポジウム」が開催され、164名が参加しました。

シンポジウムでは、拳ノ川小学校や伊与喜小学校、大方児童館、大方高校、鈴地区、伊田郷地区から活動報告がありました。また、平成30年の7月豪雨で被災した愛媛県松山市高浜地区の自主防災連合会・蔭原政徳会長から、避難場所の整備などについて話がありました。

パネルディスカッションでは、「地区防災、みなさんが主役です」をテーマに5名が登壇し、お話し避難や防災意識について討論しました。

パネリストを務めたあつたかふれあいセンターにしきの広場の松本真由子さんは、「大人だけでなく子どもも防災意識が高いと感じました。このまま防災意識を持ち続けてくれれば、安心して過ごさせていけると思う」と話しました。



パネルディスカッション

く子どもも防災意識が高いと感じました。このまま防災意識を持ち続けてくれれば、安心して過ごさせていけると思う」と話しました。

## 再び、濱田が参りました

11月5日(金)、県民座談会「再び、濱田が参りました」が開催され、濱田省司県知事が来町しました。

同取組は、知事が地域に赴き、住民との対話を通じて地域の実情を把握し、課題や施策について県政に反映させることを目的に行われています。

総合センターで行われた座談会では、各分野から3名の代表者が出席し、活動内容や課題、要望について話しました。また、質疑応答も行われ、県知事と意見を交わしました。



代表者との意見交換

県知事は、カツオ活餌生簀やカツオの水揚げ、土佐佐賀産直出荷組合、大方高校女子サッカー部の視察を行い、「地域の状況について教えていただいて、高知県民としての生き方を示してくれていると感じた。県としても心強く、それぞれに感銘を受けた。今後の参

## ランドセルプロジェクト

使わなくなったランドセルを集め、年に一度トンガ王国の子どもたちへ贈る「ランドセルプロジェクト」。今年度も輸送するための梱包作業が11月10日(水)、町役場で行われました。

参加したのは、町小中学校PTA連合会、町婦人連合会など、関係者ら約20人。50個のランドセルをプレゼントとともに梱包しました。

今年で5回目を迎える同プロジェクト。毎年50個のランドセルを贈っていましたが、今年は100個贈ることを目標とし、11月25日(木)には大方中学校で50個のランドセルの梱包も予定しています(11月10日取材時点)。

参加した町小中学校PTA連合会の矢野剛会長は、「保存状態の良いランドセルばかりで作業がスムーズに進められた。トンガの子どもたちには大事に使ってもらって、勉強にも励んでもらいたい」と話しました。



汚れを拭き取る参加者

梱包したランドセルは、来年2月にトンガに届けられる予定です。

## 子どもの命を守り生きる力を育む黒潮町民会議

子どもを取り巻くあらゆる事象から子どもの命を守り子どもの成長に地域総がかりで関わり、ふるさとへの貢献意識を育てることを目的に10月29日(金)、「子どもの命を守り生きる力を育む黒潮町民会議」がふるさと総合センターで開催され、町内各団体などから約90人が出席しました。

会議では、四国子どもとおとなの医療センター育児支援対策室長の木下あゆみさんが「地域で取り組む虐待予防〜気付けますか? 子どもからのSOS〜」と題して講演を行い、子どもを虐待から守るための予防や連携の重要性などを話しました。

実践報告を行った黒潮消防署救急救命士の小川平さんは、「普段関わらない人に対して話ができ良かった。自分の命、大切な人の命を守るためにどうすればいいか、



講演を行う木下あゆみさん

自分は何ができるか考えてもらい、救命に対する知識を習得してもらえれば」と話しました。